

首里城復元に向けた技術検討委員会 彩色・彫刻ワーキンググループ 委員名簿

※委員については五十音順 協力委員については建制順

	氏名	役職名
委員長	高良 倉吉	琉球大学名誉教授
委員	安里 進	沖縄県立芸術大学名誉教授
委員	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学名誉教授
委員	室瀬 和美	東京藝術大学客員教授
協力委員	安邊 英明	内閣府沖縄振興局参事官(振興第一担当)
協力委員	伊藤 史恵	文化庁文化資源活用課長
協力委員	眞城 英一	林野庁林政部木材産業課長
協力委員	植木 暁司	国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長
協力委員	五十嵐 康之	国土交通省都市局公園緑地・景観課長
協力委員	金城 弘昌	沖縄県教育長
協力委員	渡久地 一浩	沖縄県文化観光スポーツ部長
協力委員	上原 国定	沖縄県土木建築部長

首里城復元に向けた技術検討委員会 木材・瓦類ワーキンググループ 委員名簿

	氏名	役職名
委員長	高良 倉吉	琉球大学名誉教授
委員	伊從 勉	京都大学名誉教授
委員	田名 真之	沖縄県立博物館・美術館館長
委員	涌井 史郎	東京都市大学特別教授
協力委員	安邊 英明	内閣府沖縄振興局参事官(振興第一担当)
協力委員	伊藤 史恵	文化庁文化資源活用課長
協力委員	眞城 英一	林野庁林政部木材産業課長
協力委員	植木 暁司	国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長
協力委員	五十嵐 康之	国土交通省都市局公園緑地・景観課長
協力委員	深井 敦夫	国土交通省住宅局建築指導課長
協力委員	金城 弘昌	沖縄県教育長
協力委員	渡久地 一浩	沖縄県文化観光スポーツ部長
協力委員	上原 国定	沖縄県土木建築部長

首里城復元に向けた技術検討委員会 防災ワーキンググループ 委員名簿

	氏名	役職名
委員長	高良 倉吉	琉球大学名誉教授
委員	小倉 暢之	琉球大学名誉教授
委員	関澤 愛	東京理科大学研究推進機構総合研究院教授
委員	長谷見 雄二	早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授
協力委員	安邊 英明	内閣府沖縄振興局参事官(振興第一担当)
協力委員	白石 暢彦	消防庁予防課長
協力委員	伊藤 史恵	文化庁文化資源活用課長
協力委員	植木 暁司	国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長
協力委員	五十嵐 康之	国土交通省都市局公園緑地・景観課長
協力委員	深井 敦夫	国土交通省住宅局建築指導課長
協力委員	金城 弘昌	沖縄県教育長
協力委員	渡久地 一浩	沖縄県文化観光スポーツ部長
協力委員	上原 国定	沖縄県土木建築部長

令和元年度

開催時期	会議
令和2年 2月5日	第1回彩色・彫刻ワーキンググループ会議
2月7日	第1回防災及び木材・瓦類ワーキンググループ合同会議
2月26日	第2回防災ワーキンググループ会議
3月3日	第2回木材・瓦類及び第2回彩色・彫刻ワーキンググループ合同会議

令和2年度

開催時期	会議
令和2年 12月21日	第1回彩色・彫刻ワーキンググループ会議
12月25日	第1回木材・瓦類ワーキンググループ会議
令和3年 1月26日	第1回防災ワーキンググループ会議
2月26日	第2回防災ワーキンググループ会議
3月3日	第2回木材・瓦類ワーキンググループ会議
3月10日	第2回彩色・彫刻ワーキンググループ会議

※会議資料や議事録等は沖縄総合事務局ウェブサイトに掲載

[http://www.ogb.go.jp/kaiken/matidukuri/syurijou\\_hukugen\\_iinkai](http://www.ogb.go.jp/kaiken/matidukuri/syurijou_hukugen_iinkai)

## (2) 首里城復元に向けた基本的な方針(国)

### 首里城復元に向けた基本的な方針

〔2019年12月11日〕  
首里城復元のための関係閣僚会議

今般焼失した首里城は、沖縄県民のアイデンティティの拠り所として大切にされてきた、沖縄の方々の誇りであるとともに、日本の城郭文化の概念を広げる国民的な歴史・文化遺産である、極めて重要な建造物である。

政府は、首里城の早期の復元に向けて、首里城復元のための関係閣僚会議及び幹事会を開催し、沖縄県やこれまで復元に携わってきた有識者の参画を頂きながら議論を進めてきた。これまでの議論を踏まえて、一日も早い首里城の復元に向けて、以下の基本的な方針に基づき、取組を進めていくこととする。

- (1) 首里城の今般の復元に向け、詳細な時代考証に基づく前回復元時の基本的な考え方を踏襲して首里城を復元していくこととする。すなわち、首里城正殿について、1712年に再建され、1925年に国宝指定されたものに復元することを原則とする。
- (2) その上で、前回復元後に確認された資料や材料調達の状態の変化等を反映するとともに、今般の火災を踏まえた防火対策の強化等を行う。
- (3) 前回の復元計画にできる限り沿って復元できるよう、政府一丸となって木材や漆などの資材調達に取り組むとともに、沖縄独特の赤瓦の製造や施工等について、前回復元時から沖縄県内に蓄積、継承されている伝統技術を活用するための支援を行う。
- (4) これまで復元に携わってきた沖縄の有識者の方を含めた技術的な検討の場を内閣府沖縄総合事務局に設け、国土交通省等の関係省庁と連携しつつ、沖縄県民の意見を十分に反映できるよう沖縄県の参画を得ながら検討を進める。
- (5) 首里城跡の世界遺産登録に悪影響が及ばないように、政府として、引き続き、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)と緊密に連携しながら進める。

政府は、上記の基本的な方針の下、関係省庁における検討を進め、技術的な検討の場における議論も踏まえて、本年度内を目途に、首里城正殿等の復元に向けた工程表の策定を目指す。

政府として、引き続き、沖縄県や地元の関係者、有識者の方々と共に、国営公園事業である首里城の復元に向けて、予算措置を含め、必要な措置を講じていくとともに、観光振興や復元過程の公開等の地元のニーズに対応した施策を推進するなど、責任を持って取り組むこととする。

### (3) 首里城正殿等の復元に向けた工程表(国)

#### 首里城正殿等の復元に向けた工程表

〔2020年3月27日〕  
首里城復元のための関係閣僚会議

政府は、「首里城復元に向けた基本的な方針」(2019年12月11日首里城復元のための関係閣僚会議決定)に従って、国営公園事業である首里城の一日も早い復元に向けて、沖縄県や地元の方々のご意見を伺いながら、予算措置を含め、政府として責任を持って取り組んでいるところである。

また、この基本的な方針に基づき、これまで復元に携わってきた沖縄の有識者の方を含めた技術的な検討の場として、内閣府沖縄総合事務局に「首里城復元に向けた技術検討委員会」を設けたところであり、同委員会において、国土交通省等の関係省庁と連携しつつ、沖縄県民の意見を十分反映できるよう沖縄県の参画も得ながら検討が進められ、昨年12月から本年3月まで全9回にわたる議論の成果として、「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討に関する報告」がとりまとめられた。

この報告も踏まえて、関係省庁において検討を進め、首里城正殿等の復元に向けた工程表を以下のとおり策定する。

#### 1. 基本的な考え方

前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達の変化する状況の反映の観点から踏まえ工程を定めることとする。

#### 2. 技術的課題に関する方針

##### (1) 防火対策の強化

##### ① 再発防止策の徹底

二度とこのような火災による焼失を生じさせないよう、今後想定される様々な出火要因に対応するため、文化庁の「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」を踏まえた再発防止策を講じる。

##### ② 火災の早期発見と迅速な初期消火の徹底

今般の火災では、早期発見と初期消火を徹底することの重要性が確認されたことを踏まえ、首里城正殿に、最先端の自動火災報知設備等の火災の早期発見のための設備や、スプリンクラー設備等の迅速な初期消火のための設備を導入する。

##### ③ 消防隊による消火活動の容易化

首里城が城郭に囲まれた特殊な地形に存在していることを踏まえ、消防隊が迅速に消火活動を行うことができるよう、消火用の水を城郭内に送るための連結送水管設備を導入する。

##### ④ 消火のための水源の確保

「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」等を踏まえて、貯水槽を増設するとともに、関係機関と連携して消火栓の新設を検討する。

⑤ 世界遺産の構成資産である首里城跡の保護

連結送水管設備の導入や貯水槽の増設等に当たっては、世界遺産の構成資産である首里城跡の地下遺構の保護を前提に設計・施工を行う。なお、この場合、前回復元時の工程から大きな変更は生じない。

(2) 材料調達の状況の変化等の反映

① 木材の調達

往時の首里城に使用されていたと推定されているチャーギ（イヌマキ）及びオキナワウラジロガシの活用が望ましいが、前回復元時と同様、これらの樹種は稀少材であり、大量の材の調達は困難な状況である。

このため、首里城正殿の大径材は、前回復元時は樹種の特性を考慮し、代替材としてタイワンヒノキの無垢材を使用したことなどを踏まえて、今回の復元においてもヒノキ科の無垢材を使用する。具体的な樹種は、調達可能性などを踏まえて、国産ヒノキを中心にしつつ、カナダヒノキ、調達可能であればタイワンヒノキも使用することを含めて、引き続き市場調査を行う。

チャーギ（イヌマキ）及びオキナワウラジロガシについても、引き続き、調達可能かどうかの調査を継続し、使える材があった場合には、可能な限り活用する。

② 漆の調達

漆については、前回復元時と同様、基本的に中国産漆を使用することとし、首里城の気候や風土にふさわしい漆の品質確保を図るため、城郭内で試し塗りをを行うなど、調合方法の検討を行う。

③ 沖縄独特の赤瓦の製造・施工

関係機関との連携により沖縄本島産の材料を調達するとともに、沖縄県内に蓄積、承継されている伝統技術の活用を図る。

3. 首里城正殿等の復元に向けた工程表

上記を踏まえて、首里城正殿について、令和2年度（2020年度）早期に設計に入り、令和4年（2022年）中には本体工事に着工し、令和8年（2026年）までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め別添のとおり復元に向けた取組みを進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。

その上で、今後、沖縄県や地元の関係者の意見も踏まえながら、速やかに首里城北殿や南殿等の復元に向けた具体的な検討に着手するとともに、「首里城復元に向けた技術検討委員会」において工程表を踏まえた詳細な検討を進める。

# (別添)首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

		(年度)									
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9以降	
材料調査 (大径材)		市場調査									
	設計	基本設計	実施設計								
		材料調達 (大径材)		調達	乾燥						
正殿	工事	仮設道路 がれき撤去									
			木材倉庫								
					発注手続(WTO)		本体工事				
北殿、南殿等		撤去	正殿復元の施工ヤードとして使用								
		検討							工事		

#### (4) 首里城美術工芸品等管理委員会（(一財)沖縄美ら島財団）

沖縄の貴重な歴史文化遺産の適切な保存を図ることを目的として、令和2年度と令和3年度の間計4回の委員会を開催し、首里城美術工芸品の被害状況の確認、美術工芸品の管理方針の策定、美術工芸品の修理および復元計画の策定、美術工芸品特別展示・特別収蔵施設への提言のとりまとめを行った。さらに、絵画・書跡・漆器・染織・陶磁器・その他毎に各委員が専門分野のワーキングを担当・開催し、美術工芸品の状態確認調査や修理および復元に関する助言を行った。

#### ■委員名簿

	氏名	役職名
委員長	高良 倉吉	琉球大学名誉教授（歴史）
委員	安里 進	沖縄県立芸術大学名誉教授（漆芸史）
委員	田名 真之	沖縄県立博物館・美術館館長（歴史）
委員	早川 泰弘	東京文化財研究所保存研究センター長（保存科学）
委員	湊 信幸	東京国立博物館 元副館長（絵画）
委員	室瀬 和美	東京藝術大学客員教授（漆芸家）
委員	森 達也	沖縄県立芸術大学教授（陶磁器）
委員	與那嶺 一子	沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員（染織）

事務局：(一財)沖縄美ら島財団

#### ■開催一覧

開催時期	会議	内容
令和元年 12月10日	第1回首里城美術工芸品等管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所在確認調査結果報告の確認</li> <li>・ 被害と保存管理に関する課題抽出</li> <li>・ 火災後の首里城現場視察と施設の課題抽出</li> </ul>
令和2年 3月3日	第2回首里城美術工芸品等管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状態確認調査中間報告の確認</li> <li>・ 修理および復元に関する課題抽出</li> <li>・ 展示・収蔵施設の被害の結果報告の確認</li> </ul>
11月25日	第3回首里城美術工芸品等管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状態確認調査結果報告の確認</li> <li>・ 修理の進捗確認と修理方針の検討</li> <li>・ 首里城美術工芸品の避難・保管の状況確認</li> </ul>
令和3年 3月11日	第4回首里城美術工芸品等管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所在・状態確認調査結果報告の最終確認</li> <li>・ 修理および復元計画に関する提言（案）</li> <li>・ 特別収蔵・展示施設に関する提言（案）</li> </ul>

## 6 用語集

(五十音順)

### AR

「Augmented Reality」の略で、一般的に「拡張現実」と訳される。現実の風景に、コンピューターで作ったデジタル情報を重ね合わせて表示することで、仮想のモノを現実世界に反映(拡張)していく技術のことである。

### Google Arts & Culture

Google 社が運営する、芸術や文化、歴史を鑑賞できる非営利のオンラインミュージアムサービスのこと。アプリや Web サイトがある。Google 社と沖縄県が協力し、令和2年10月30日から、首里城と琉球文化を紹介するオンライン展示「首里城復興」を公開している。

<https://artsandculture.google.com/project/castles-of-japan?hl=ja>

### ICT

「Information and Communication Technology」の略で、「情報通信技術」のこと。IT (Information Technology=情報技術) がハードウェア・アプリケーション・インターネット・OA 機器など情報技術全般を指すのに対して、ICT は「Communication (通信・伝達)」という言葉が入っているとおり、情報技術によって人・モノ・組織・地域などあらゆるものをつなげることを指す。

### VR

「Virtual Reality」の略で、一般的に「仮想現実」と訳される。専用のゴーグルなどを用いることで、コンピューターで作られた仮想空間をあたかも現実のように感じる事ができる技術のことである。

### (一財) 沖縄美ら島財団

首里城公園の現指定管理者。昭和51年(1976)に(財)海洋博覧会記念公園管理財団として発足。以降、国営海洋博覧会記念公園(現在の海洋博公園)と首里城公園の管理運営を受託し、管理運営業務を担ってきた。平成24年(2012)に一般財団法人沖縄美ら島財団に改称。平成31年(2019)2月の国営公園区域(有料区域)の沖縄県管理に伴い、同財団が指定管理者として選定された。県営公園区域においても同財団が指定管理者である。平成4年に国内外に散逸した首里城関係の文化遺産の収集・公開を目的とした首里城基金が財団内に設置され、文化遺産収集事業が行われている。被災した美術工芸品の多くが、この首里城基金で収集・復元されたものである。

### イヌマキ

方言名はチャーギ。日本(関東~四国、九州、沖縄)及び台湾等に分布。高さ10m以上に達し、葉は互生、狭披針形~広線形で、直立したやや狭い樹冠をもつ。造林樹種として有用樹であるが、庭園木としてもその価値は高い。琉球の木造建築物には歴史的にイヌマキが重宝され、王府の保護政策も行われた。こうした歴史性を配慮して、首里城の復元では建物の象徴的な部分にイヌマキを使用する方針となっている。

### 御茶屋御殿(うちややうどうん)

琉球王国時代の王家の別邸(離宮)。1677年に那覇市首里崎山町の高台に造営された。国王遊覧の地であり、中国の冊封使や薩摩の在番奉行らの賓客の接待に利用された。園内には望仙閣や茶亭、庭園などがあり、建物は昭和初期まで維持されたが沖縄戦で焼失した。



## 円覚寺跡(えんかくじあと)

1494年創建。首里城の北側にある、沖縄における臨済宗の総本山で、第二尚氏王統歴代の菩提寺である。禅宗の「七堂伽藍」の様式で建物が配置され、仏殿は琉球建築の粋を集めた建物であった。沖縄戦まで伽藍のほとんどもを備えていたが、戦災と戦後の破壊で失われた。放生池と石橋、石階・石垣の一部は遺存し、総門・両腋門とそれにつづく石垣が修復されている。

## オキナワウラジロガシ

方言名はカシギ。沖縄県内では国頭、中頭、久米島、石垣、西表に分布する。10m以上に達する高木で、小枝は乾けば暗褐色を呈し、無毛で灰白色の皮目が著しい。建築用材やシイタケ原木、庭園木に使用される。

## おきなわ工芸の杜(もり)

工芸産業を振興、発展させるために必要な技術や技法の高度化、市場ニーズに対応した製品開発、工芸分野の起業家の育成などを推進する沖縄県の拠点施設の名称。令和4年(2022)3月開館予定。

## 唐破風妻飾(からはふつまかざり)

唐破風とは正殿正面向拝(こうはい)屋根に用いられる日本の社寺建築様式である。正殿の妻壁の中央には、火焰宝珠(かえんほうじゅ)と大墓股(だいかえるまた)、両脇に金龍と瑞雲の彫刻がつけられており、この装飾を唐破風妻飾という。

## クチャ

沖縄本島南部を中心に分布する粘土状の土。クチャはもともと海底に堆積した粘土で貝の化石やサンゴの死骸を多く含み、炭酸カルシウムやミネラルを豊富に含んでいる。昭和44~45年頃から瓦原料として使われるようになった。

## 組踊(くみおどり)

組踊とは、唱え、音楽、踊りによって構成される琉球の歌舞劇。中国皇帝の使者である冊封使を歓待するため、18世紀初頭の踊奉行であった玉城朝薫によって創始され、1719年に首里城で上演されたのが始まりである。ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。

## 県立芸術大学

昭和61年(1986)に首里に開学した沖縄県立の芸術大学(正式名称:沖縄県立芸術大学)。美術工芸学部、音楽学部の二学部と、大学院(造形芸術研究科、音楽芸術研究科、芸術文化学研究科)がある。琉球芸能専攻や工芸専攻においては、沖縄の伝統芸能や伝統工芸の習得及び研究を行っている。令和3年(2021)4月より公立大学法人へ移行。

## 木曳式(こびきしき)

首里城を建設する御用材を搬入する儀式のこと。本島北部の山原(やんばる)の山々から木を伐り、首里城まで大勢の人々で曳いてきた情景を歌った「国頭(くんじゃん)サバクイ」がある。首里城外郭西側にある木曳門(こびきもん)は、琉球王国時代には資材の搬入口のときに使用された門である。

## コミュニティバス

国土交通省の定義によると、コミュニティバスとは、交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村等が主体的に計画し、(1)一般乗合旅客自動車運送事業者に委託して運送を行なう乗合バス(乗合タクシーを含む)、(2)市町村自らが自家用有償旅客運送者の登録を受けて行なう市町村運営有償運送、というような方法で運行する交通機関のこと。

## 在外沖縄関連文化財

琉球王国の外交や貿易の過程において、多くの琉球の文物が海外へ贈られた。また、薩摩侵攻や琉球処分、沖縄戦などの歴史的事件の折にも、貴重な文化財が県外・海外に散逸した経緯がある。沖縄県では、太平洋戦争や長い年月の

間に失われてしまった沖縄の文化財の欠落を、沖縄県外に現存する沖縄文化財を以て、補完するため、県外に所在する文化財の実態調査を行っている。

### 首里城周辺等に存在する戦争遺跡

司令部壕などの軍事的な施設に加え、住民が避難した壕や学徒隊壕、新聞社壕、また被災・破壊痕跡などの戦争遺跡が確認されている。首里城公園内では第32軍の首里司令部壕のほか、ハンタン山の通信所跡、留魂壕(りゅうこんごう)跡等が確認されている。

### 首里杜構想(すいむいこうそう)

昭和59年(1984)に沖縄県が策定した構想。弁ヶ嶽を頂点に、金城川・真嘉比川に囲まれた範囲及び流域と分水嶺一帯を古都首里の歴史的発展を特徴づけた風土環境ととらえ、その環境を保全しながら、首里城を中核とする一帯(首里杜地区)のまちづくりを進めていく方向性を示したものである。

### スージグワー

沖縄の方言で細い路地をさす。

### 正殿遺構

正殿基壇の遺構は世界文化遺産に登録され、国指定史跡でもある首里城跡を象徴する大変重要な文化財である。正殿遺構には往時の基壇(建物を支える土台)の石積みを見ることができ、これらの基壇遺構は、ほかの瓦等の埋蔵物や歴史的な情報と合わせて、首里城が少なくとも7回にわたって正殿建物が建て替えられたことを伝えている。現在、公開している遺構は一部だが、15世紀からこの地に建設されてきた首里城の痕跡を実際に見ることができる。

### 世界のウチナーンチュ

沖縄県は全国でも有数の移民を送り出した県として知られ、その歴史は100年を超える。先人

達は、海を渡った先で懸命な努力によって幾多の困難を乗り越え、生活基盤を築き、異文化社会の中に根を下ろしながら、沖縄独自の伝統や文化、アイデンティティーを脈々と受け継いできた。今では世界各地に約42万人の県系人がいると推計されている。

### 第32軍司令部壕

首里城の地下にある日本陸軍の沖縄守備軍の戦闘指令所の跡。全長1,000m以上にも及ぶ。沖縄守備軍は昭和19年(1944)3月に創設され、昭和20年(1945)3月に司令部壕を掘り移動した。米軍上陸後、首里地域は攻防戦の中心となり、壕内には軍首脳以下約1,000人が生活し、指令官室・参謀長室・作戦室・無線室の他に兵隊のベッドや炊事場、浴室にトイレまで完備されていた。現在、坑口からおおよそ150mのところ土砂が堆積し行き止まりとなっており、日本軍が撤退した際に爆破した影響とされている。坑口はフェンスなどで閉鎖されているため入ることはできない。

### 大龍柱(だいらゆうちゅう)

正殿中央階段の左右に立つ石彫刻。細粒砂岩(ニービヌフニ)を材料としている。龍を柱に見立てて彫刻している例は中国や韓国、日本本土には見当たらず、首里城独特といわれている。今回の火災では損傷は受けたものの遺存し、移設して保存修復措置がとられた。

### デジタルコンテンツ

画像、映像や文章等をデジタル形式で作成されたものの総称。この復興基本計画では、PCやスマートフォン等必要なデバイスがあれば、いつでもどこでもVR・AR・映像やゲーム等のデジタルコンテンツを利用して、首里城及び芸能や工芸等の沖縄文化を仮想現実でリアルに体感できるよう取り組み、文化の発信、文化の担い手育成等を目指すとしている。

### 中城御殿跡(なかぐしくうどうんあと)

琉球王国の世継ぎ(中城王子)の屋敷。当初は現首里高校敷地にあったが、1875年に首里大中町に移転。1879年の琉球処分の中城明け渡しに伴い尚泰王以下、尚家一家が移り住み、以降は尚侯爵家首里邸となる。1945年に沖縄戦で多くの宝物とともに焼失した。

### 那覇インターアクセス道路

沖縄自動車道・那覇インターチェンジから那覇新都心に至る約3kmの地域高規格道路として計画されている道路。高規格道路である沖縄自動車道と那覇新都心を連絡することにより、中南部圏の中心都市としての那覇の拠点機能が高まるとともに、北部圏と中南部圏相互の交流を促進する道路として期待されている。

### パークアンドライド

交通渋滞対策などのため、マイカーを自宅近くの駅など交通結節点に止め(Park)、公共交通機関に乗り換えて(Ride)中心市街地に向かうシステムのこと。

### ふるさと

『「ふるさとづくり」の推進に向けて～「こころをよせる」、「そこにかかわる」～』(ふるさとづくり有識者会議、首相官邸HP掲載)によると、「「ふるさとづくり」とは、ある場所に「こころをよせる」ことと、「そこにかかわる」ことのくり返してあり、ひとりひとりのこれまでの「ふるさと」に対する愛着、帰属意識が一層高まるとともに、新しい場所を「ふるさと」と思うことにもつながり、これによって「ふるさと」がつくられていきます。」と記されている。本計画書における「ふるさと」も、同様の趣旨で用いている。

### プロジェクションマッピング

コンピュータで作成したCGとプロジェクタ等の映写機器を用い、立体物に映像を映し、時には音と同期させる技術のこと。首里城では、琉球王国や琉球文化をテーマとした映像を門や城壁に投影したイベントが開催された。

### 弁ヶ嶽御嶽(べんがだけうたき)

首里城の東方約1kmにある標高165.5mの丘陵に所在する。琉球王国時代、国王の健康や国家安穩の祈願等、国家祭祀の聖域として位置付けられ、国王の参拝が行われた拝所のひとつである。18世紀には首里城の風水重要場所であると認識されていた。

### 松崎馬場(まつざきばば)

龍潭の東端に位置する。首里城から浦添方面に至る街道の一部及び広場の名称。龍潭(りゅうたん)に突き出した一帯には松が植えられ、そこから松崎と名付けられた。1801年に、この地(現沖縄県立芸術大学敷地)に「国学」(琉球王国の最高学府)が置かれた際、松崎前の条路に木々が植えられ、この一帯が整備された。中国から冊封使が来琉した際には、この地で「重陽宴」が開かれ、爬龍船競漕見物のため棧敷席が設けられた。

### 模造復元

ある作品について調査・研究を重ね、製作された当時の姿を忠実に復元したものを新たに製作することを指す。製作においては、可能な限り製作当時と同じ材料と技術を用いる。

### 龍潭(りゅうたん)

1425年に琉球を訪れた冊封使が尚巴志に首里城の北側に池をつくるようすすめたのがきっかけとなり、2年後の1427年に国相壊機が作庭したものである。魚が数多く棲息し、周辺に色鮮やかな花々が咲き誇り、水面には首里城が映える琉球随一の名勝であった。

### 龍頭棟飾(りゅうとうむなかざり)

首里城正殿大棟の両端と唐破風屋根の上にある龍頭のこと。1682年に陶工・平田典通が五彩の釉薬で龍頭を焼いたことが記録されている。平成の復元においても釉薬をかけた焼物で復元した。

#### 主な参考文献

- ・『首里城ハンドブック』（首里城公園友の会発行、1998年）
- ・『御茶屋御殿 21世紀へのメッセージ』（御茶屋御殿復元期成会準備委員会発行 1999年）
- ・『首里城公園ガイドブック』（国営沖縄記念公園事務所編、財海洋博覧会記念公園管理財団発行、2000年）
- ・『沖縄県の戦争遺跡ー前田高地から首里までー』（沖縄県立埋蔵文化財センター発行、2018年）
- ・『首里城物語』（（一財）沖縄美ら島財団発行 2019年）